

平成 28 年度 事業報告

公益社団法人 掛川市シルバー人材センターの平成 28 年度事業及び活動について、次のとおり報告いたします。

概 要

平成28年度における経済状況をみると、財政政策、民間投資を喚起する成長戦略等を柱とする経済財政政策の推進により、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続いています。景気は上向き傾向と言われますが、高齢者世帯や地域経済の中核を担う中小企業等においては、経済状況の回復や雇用の改善等を実感することはなく、現時点においても先行きは不透明であり、当面は厳しい状況が続くものと想定されます。

当センターでも、極めて難しい事業運営でありましたが、会員を始め役員各位の御協力のもと、契約実績では県の派遣事業を併せると前年度以上の実績を上げることができました。民間企業や一般家庭などからの受託額は徐々に回復傾向にあります。しかし、会員の増員計画では、様々な対策や活動を展開して参りましたが、当初で目標とした数値計画を達成できておりません。そのような中、平成 28 年度の事業実績は、多くの関係各位からの御支援・御協力を賜りまして健全且つ着実な事業運営が実現できました。

事業実績の数値は、会員数 747 人（前年比 10 人増 101.4%）契約額は 482,904 千円（前年比 1,371 千円減 99.7%）、会員配分金では 426,715 千円を配分することができました。就業延人員は 99,266 人となり、前年比（2,517 人減 97.5%）となっています。

懸案である傷害事故並びに損害事故の抑止対策は、安全・適正就業委員会を中心として安全就業等に対する周知徹底や、啓発事業等に積極的に取り組んで参りましたが、傷害事故が 2 件（前年比 2 件減）、損害事は 9 件（前年比 5 件増）発生しております。

今後においても、役員、地域リーダーを始めとし、全会員が一丸となり、安全就業の徹底と就業機会の拡大を推進するとともに、医療保険や介護予防等の観点からも重要な役割を果たしつつ、これまで以上に地域社会への貢献を目指して参ります。

また、厳しい財政状況下ではありますが、掛川市を始めとして、関係機関、関連企業並びに市民各位の更なる御支援・御協力を切にお願い申し上げる次第です。

平成 28 年度事業報告 附属明細書

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要」な事項が存在しないので作成しない。

平成 29 年 5 月

公益社団法人 掛川市シルバー人材センター

4 事業活動状況

(1) 普及啓発活動

ア 本年度も公共機関や民間企業及び賛助会員を訪問し、センターに対する理解と信頼を得られるような活動を実践すると共に「社会奉仕活動」等を実施する中でシルバーの存在意義をPRする等、発注者に対し理解と信頼を得る活動を推進し、併せて会員の募集を目的とした独自のパンフレットを作成し、掛川市の広報誌に折込み、市内の全世帯（約40,000世帯）に配布しました。

イ 会員への情報提供と関係機関への普及啓発のため、機関紙「絆」を、1月及び7月の2回発行しました。この機関誌は、法人賛助会員を始め、市内の多くの企業等にも配布をしております。その他、隔月に4回「会員だより」を発行、会員等に対しきめ細かな情報提供とコミュニケーションの醸成に努めて参りました。

ウ 本年度も「掛川市消費者生活展」に参加し、女性部を中心に、会員からの寄贈品等を販売しました。また、毎年、好評の会員による包丁研ぎを実施するなど、シルバー人材センターの持つ技能と技術を活かして、その存在感を多くの一般市民等に理解して頂くための実践活動を積極的に展開してきました。

(2) 会員の加入促進と就業機会の確保

ア 会員増加を実現するため、定時総会時及び各種のイベントや講習会等の際に積極的に呼び掛けを行うと共に参加者等に協力要請をしてきました。特に団塊世代の加入促進を心掛け活動しましたが、高年齢者の再雇用制度の影響などから、当該世代の増員が実現できなかったこともあり、結果は10人増に留まり、年度当初で目指した増員計画は残念ですが達成できておりません。

イ 一人暮らしの高齢者宅への配食サービス事業の充実（主に安否確認等）に努めて参りました。現状において、極めて重要である安否確認等については、配食サービス事業の実施を進める中で、実質的な成果を上げております。また、家事援助班の自立活動及びサービス提供会員の養成並びに拡大や意識の向上等にも努めて参りました。

ウ 適正就業については、仕事の分かち合いを基本として、長期間同一就労の是正を図るため、「申し合わせ事項」による就業を推進しました。

労働者派遣事業については、派遣先の企業等との協議・調整等を行い派遣事業を推進しました。国の施策などにより、今後も派遣事業の実施が必須となるため、段階的に派遣事業の拡大を推進して参ります。

エ 基盤拡大事業（会員拡大と就業拡大・調査研究等）

シルバー事業の自主・自立促進のためには、会員及び就業機会の拡大が必要不可欠であります。そのため、普及啓発活動を強化推進し、就業機会及び会員の拡大を目途に各種の対策を実践してきました。今後も継続して会員の拡大と就業機会の拡大活動を強化して参ります。

(3) 講習・研修会の開催

会員向け講習会・研修会等を積極的に開催し、発注者等からの様々な期待に十分に応えられる、質の高い会員の育成に努力して参りました。安全講習会は就業等に関する安全講習会を基本として各職群事にそれぞれ複数回開催しました。

技能講習会は、一般市民等を対象とした「庭木等剪定講習会」を、昨年度に引き続き、センターにおいて独自に実施しました。

講習会や研修会等の開催及び受講により、会員の安全意識の一層の高揚と、優れた技術・技能の継承が実現できるとともに、懸案である後継者の育成と、就業会員数の増加に繋がることを目指すものです。

(4) 会員及び役員自主・自立と意識の高揚

理事の義務及び責任について、理事会等により周知徹底を図り、公益社団法人理事として更なる資質の向上を実現し、理事自らが主体的に活動する組織となるよう協議して参りました。また、各地域リーダーを中心として地域班の充実を図りました。

各地域リーダーは、班員との意思の疎通に努め、班員との連携を密にし、お互いに資質の向上を図るとともに、社会奉仕活動や地域懇談会の開催計画を率先して策定するなど、自主的な取組みを実践して参りました。

(5) 自主財源の確保対策

事業運営費収入の根幹である補助金等が削減され、回復が望めない現状において、事務費の増額等を中期的な課題として検討することや、賛助会員の更なる確保に努めて参りました。事務費については、今後の消費税率 10%への引き上げや、物価の上昇等に伴い、早期の増額は難しいとの判断から、今後も中期的な課題として検討して参ります。また、法人及び全会員を対象とした「賛助会員」については、多くの方々に御賛同・御協力を頂き前年度を若干上回っております。賛助会への加入につきましては、今後も、より多くの皆様に御協力を頂きたいようお願い申し上げます。

(6) 独自事業のPRと後継者の育成強化

正月用の注連飾り、腐葉土販売など、独自事業の後継者育成と、会員の自主的な取り組みによる、新たな独自事業等を模索するとともに、公共機関及び民間事業所や各家庭等へのPR活動を積極的に進めて参りました。

現実的に独自事業は、後継者の育成が大きな課題となっており、特に、腐葉土事業の就業会員確保が達成できていないので、今後は独自事業に特化した会員の募集をかけ、益々増大している需要に確実に応えて行くことが必要となります。

(7) 安全就業・交通事故防止と健康管理

シルバー会員が就業する上で最も重要なことは、健康管理と安全就業対策に尽きます。その目的を達成するため、安全・適正就業委員会を中心として、安全就業の徹底や体調管理等の呼びかけ、就業現場に於ける抜き打ち安全パトロールを計画的に実施しました。

また、本年度も職群班を中心に、安全就業対策講習会や、掛川自動車学校を会場として、運転技能実技検査（参加会員等 10 人）や草刈検定講習会（参加会員等 15 人）等をそれぞれ実施しました。

(8) 地域社会奉仕活動

各地域リーダーが自主的に計画し、市内 21 ヶ所の公私立幼稚園及び保育園での草刈り、草取り、樹木の剪定や花壇の手入れ等の奉仕作業に会員 455 人が参加し、地域のために汗を流してくれました（参加率 63.0%）。毎年恒例の社会奉仕活動ですが、最近は参加会員数が伸び悩んでいます。特に旧掛川地区の出席率が低く課題は残っております。次年度以降も参加者増加を目指し、様々な対策を検討していく必要があると思います。

本年度ご出席頂きました会員さんには、心から厚く御礼を申し上げる次第です。会員各位には、社会奉仕活動の趣旨並びにその重要性を十分にご理解の上、積極的な参加をお願い申し上げます。

- ☞ 会員全体の出席者数及び率 出席数 455 人/722 人=63.0%
- ☞ 掛川地区 出席者数及び率 出席数 303 人/538 人=56.3%
- ☞ 南部地区 出席者数及び率 出席数 152 人/184 人=82.6%

(9) 指定管理業務

ア 市総合福祉センターの福祉活動館及び多目的広場の指定管理者として、利用者に親しまれる管理運営に努めるとともに、数地内団体との協議及び連絡調整会（総合福祉センター連絡協議会）等を継続的に実施してきました。

- ◆ 福祉活動館利用者：3 月末累計 1,344 団体 18,837 人
- ◆ 多目的広場利用者：3 月末累計 329 団体 10,834 人
- ◆ 使用料納付状況：3 月末累計 409 団体 574,190 円

イ 森林果樹公園指定管理業務、当施設の指定管理業務は2期目となりました。第1期、平成24年度～26年度の3年間で挙げてきた実績をもとに、施設管理を受託し、質の高いサービスの提供と顧客満足度を意識した運営をして参りました。当施設は、管理者1人と、会員8人がローテーションを組み、就業しております。施設では、収穫する果実の品質にこだわりを持ち、良いものを廉価にて販売していることで、多くの市民等から高い評価と支持を頂いています。

また、恒例ですが、昨年8月には、同施設内で「果樹公園フェア」を開催、市内外から650名余の親子等が訪れました。また、12月21日から2月15日にかけて、一般市民等を対象とし「果樹剪定講習会」を実施、市民を始め、市外からの参加者など延べ256人に剪定技術講習を受けて頂きました。更に、施設敷地内に「株式会社 たこ満」の菓子工房等がオープンしたことから、果樹公園を訪れる市民等が増大し、大いに賑わいを見せています。今後も、より良い施設運営を目指して参ります。

(10) 他の機関との連携強化等

今年度も財政状況は厳しい中でしたが、市当局に対しては引続きの支援を要請するとともに、県シルバー人材センター連合会及び西部ブロック代表者会議並びに掛川ハローワーク等との連携をより強化するための活動に積極的に取り組んで参りました。

(11) 公益社団法人移行に伴う新々会計の的確な処理の実現

平成24年4月1日から「公益社団法人」に移行したことにより、会計処理は「公益社団法人会計基準」に基づき会計処理を行っております。本会計も5年を経過することになりますが、今年度も、公認会計士等の指導及び確認のもと、制度化された会計基準に基づき、公正かつ確実な会計処理を実現して参りました。